荘内日報　平成１８年３月１７日(金)

鶴岡高専地域共同テクノセンター 産業技術フォーラム

最新情報を吸収

障害者支援ロボットについて学ぶ

ロボット技術などについて学んだフォーラム

鶴岡高専地域共同テクノセンター（加藤康志郎センター長）の「産業技術フォーラム」が15日、酒田市の市勤労者福祉センターで開かれ、地元の企業関係者らが専門家の講話で、障害者を支援するロボット技術などについて学んだ。

地域共同テクノセンターの前身の鶴岡高専地域協力教育研究センターが設立された1994年度から毎年、鶴岡市と酒田市で1回ずつ開催している。最新の産業情報などを提供し、産学官連携による技術開発の振興などを図るもの。通算23回目の今回は、地元の企業や福祉関係者ら約30人が参加した。

講話は、国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所の中山剛研究員の「障害者ニーズと福祉機器の研究開発」、福島大学共生システム理工学類の高橋隆行教授の「人間支援機器開発とロボット技術」の2題。

このうち高橋教授は、人間の声を理解して飲み物などを持ってくる介護ロボット「IRIS（イリス）」をはじめ、障害者を支援するロボット技術について講話した。

足が不自由な人の廃用症候群（動かさないとますます機能が衰える症状）対策で研究開発に取り組んだ足こぎ車いすでは、電気刺激で筋肉を動かすFES（機能的電気刺激）で足を動かしペダルをこぐ方法や、わずかな足の動きで人間の意思をとらえ動力でペダルこぎを助ける方法など、機械と人間の「共生」の様子を紹介。「ロボットに感情までは求めなくても、人間の意思ぐらいは分かってほしい。人間の意思をどう伝えるかが重要」と語った。

鶴岡市では昨年9月、国際規格ISOや有機ELをテーマに講話が行われている。